

尾瀬国立公園における優先防護エリアの選定について

1. 目的

尾瀬国立公園におけるニホンジカによる植生被害対策のため、優先的に防護する必要性の高いエリアを選定する。

2. 選定基準

①から⑤のいずれかの選定基準を満たし、風致・景観の維持上又は生物多様性の保全上重要なエリアとする。

① 季観を構成する特徴的な種を有するエリア

季節的な変化を見せる植物群落の構成種で特徴的な種

- (a) ミズバショウ
- (b) ニッコウキスゲ

② 絶滅危惧種及び希少種を有するエリア

- (a) 環境省レッドリストの絶滅危惧種

環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類（CR、EN）及びⅡ類（VU）に掲載されている種が集中して分布するエリア

- (b) 地域的に特に個体数が少ない種

県レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類（CR、EN）相当の種や尾瀬国立公園において個体数が少ないと判断される種が集中して分布するエリア

③ 特殊な条件の立地に生育する種を有するエリア

- (a) 高層湿原、中間湿原、低層湿原
- (b) 雪田
- (c) 特殊岩石地（かんらん岩地・蛇紋岩地等）

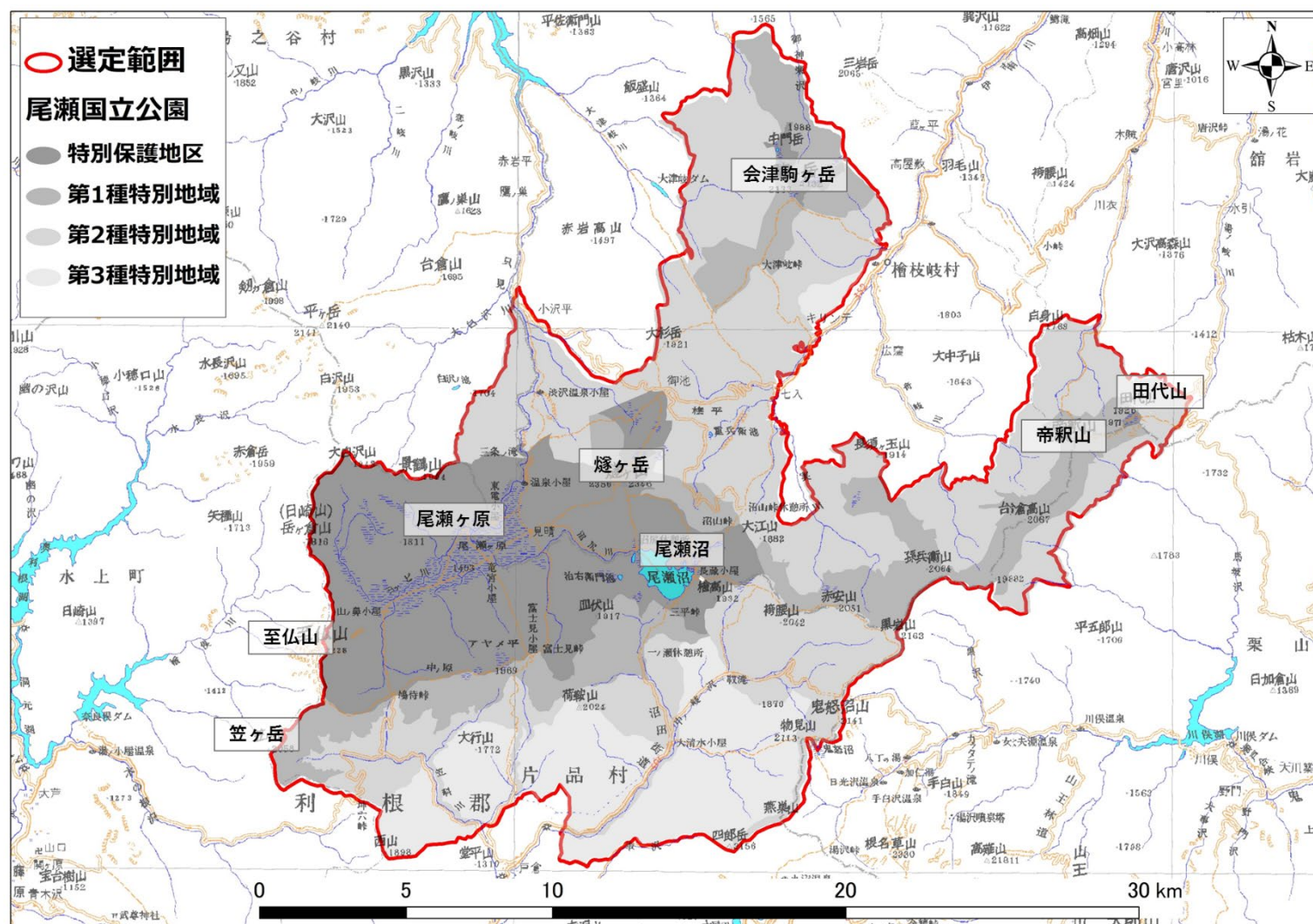
④ 分布の特殊性を有する種の生育するエリア

- (a) 分布の範囲が尾瀬国立公園及びその周辺に限定されている種
- (b) 尾瀬国立公園が国内における分布の東西南北の限界（もしくはそれに近い地域）となっている種

⑤ 対策の緊急性（ⅰ～ⅲに分類）

- ⅰ：緊急性は高い
- ⅱ：緊急性は中程度
- ⅲ：緊急性は低い

※シカの嗜好性、地形、被害の状況等を総合的に評価



希少種の保全の観点から一部の情報を黒塗りにしています

3. 優先防護エリアの検討

既存の植生調査等の結果と上記①～⑤の選定基準の対応を表 1 及び図 2 のとおり整理する。

表 1 抽出エリアと選定基準の対応表

抽出エリア		図番	選定基準									優先防護エリア 選定結果※	保全の対象	
			①		②		③			④				⑤
			(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)	(c)	(a)	(b)			
尾瀬沼周辺 エリア	大江湿原	1	●	●	●	●	●			●	●	i	A	ニッコウキスゲ群生地 クロバナロウゲ、シナノキンバイ ヤナギトラノオ、オゼヌマアザミなど
	沼山峠	2									●	iii	D	ジョウシュウオニアザミ生育地
	小淵沢田代	3					●					iii	D	高層湿原・中間湿原
	施設周辺	4				●						iii	D	カラフトダイコンソウ、エゾムラサキ 生育地
	三平下・早稲沢付近の湿原	5	●		●	●					●	iii	D	オゼヌマアザミ、オオバコウモリ生育地
	三平峠付近	6				●						iii	D	ウラゲキヌカサソウ生育地 消失?
	沼尻平 小沼湿原 曲り田代	7					●					iii	D	高層湿原・中間湿原・低層湿原
	白砂田代	8					●					iii	D	高層湿原・中間湿原
	大清水平	9					●					iii	D	高層湿原・中間湿原
	タソガレ田代	10											iii	D
尾瀬ヶ原周辺 エリア	見晴周辺	11			●	●	●					ii	B	低層湿原、ヒメミズトンボ
	沼尻川掬水林	12			●	●				●	●	iii	D	シバタカエデ、ヘニヤマシャクヤク オゼキンボウゲ生育地
	竜宮周辺	13	●			●	●					ii	B	低層湿原 ヤナギトラノオ、オオニガナなど
	下ノ大堀	14	●	●			●					i	A	ニッコウキスゲ群生地 ミズバショウ群生地
	ヨッピー川南岸	15		●		●	●					i	A	ニッコウキスゲ群生地
	景観山山麓扇状地	16			●	●				●	●	ii	C	センジュガンビ、オゼキンボウゲ シバタカエデ生育地
	泉水田代	17				●	●					i	B	高層湿原・中間湿原・低層湿原 クロバナロウゲ生育地
	研究見本園周辺	18	●		●	●	●				●	ii	B	低層湿原 ミョウコウトリカブト シラネアザミ、ヒメミズトンボなど生育地
	山ノ鼻周辺	19				●						iii	D	オオバコウモリ、カラフトダイコンソウ ヒメゴヨウイチゴ生育地
	テンマ沢	20	●									iii	D	ミズバショウ群生地
	横田代	21				●						iii	D	高層湿原・中間湿原 (山地傾斜湿原)
	アヤメ平	22				●	●					iii	D	コガネイチゴ、マルバウスゴ生育地
	富士見田代	23					●					iii	D	高層湿原・中間湿原
	黒塗	24			●	●						iii	D	黒塗 生育地
	イヨドマリ沢	25				●					●	ii	C	ジョウシュウトリカブト生育地
	黒塗	26				●						i	A	黒塗 生育地
	大橋沢周辺	27				●					●	ii	C	ジョウシュウトリカブト フキユキノシタ生育地
	黒塗	28				●						ii	D	黒塗 生育地
	ウサギ田代	29					●					ii	D	中間湿原
	黒塗	30				●						iii	D	黒塗・シラネアオイ生育地
	外田代	31					●					iii	D	
	柳平	32					●					iii	D	
	鳩待～山ノ鼻	33				●						iii	D	カラフトミヤマシダ、オクヤマシダ生育地
	川上川上流	34				●						iii	D	オオタカネバラ生育地
	尾瀬ヶ原周辺	35				●						iii	D	シデンクモキリ生育地
	長沢	36				●						iii	D	ヒメゴヨウイチゴ
燧ヶ岳エリア	燧ヶ岳山頂周辺	37				●					●	i	B	高山植生 ジョウシュウオニアザミ コマクサ、トウヤクランドウ アラシグサ、ウラゲキヌカサソウ生育地
	熊沢田代	38				●	●					iii	D	高層湿原・中間湿原 (山地傾斜湿原)
	広沢田代	39					●					iii	D	高層湿原・中間湿原 (山地傾斜湿原)
	御池田代 スモウトリ田代周辺	40				●	●				●	ii	C	低層湿原 クロバナロウゲ生育地 オオバコウモリ生育地
	天神田代、西田代 ノメリ田代、上田代	41					●					iii	D	高層湿原・中間湿原 (山地傾斜湿原)
至仏山・笠ヶ岳 エリア	至仏山周辺	42			●	●		●	●	●	●	ii	A	雪田植生 (山地傾斜湿原)、蛇紋岩植生
	オヤマ沢田代	43				●		●				i	A	雪田植生 (山地傾斜湿原)
	笠ヶ岳周辺	44			●	●		●	●	●	●	i	A	雪田植生 (山地傾斜湿原)、蛇紋岩植生
	片藤沼周辺	45					●					iii	D	高層湿原・中間湿原
会津駒ヶ岳 エリア	会津駒ヶ岳山頂周辺	46				●		●			●	ii	C	雪田植生 (山地傾斜湿原)
	大津岐峠周辺の稜線	47				●		●			●	ii	C	雪崩斜面谷頭部のシラネアオイ生育地など
田代山・帝釈山 エリア	田代山山頂周辺	48					●					ii	C	高層湿原・中間湿原 (山地傾斜湿原)
	帝釈山山麓	49				●						ii	C	オサバグサ群生地
	猿倉登山口周辺	50				●					●	ii	C	センジュガンビ群生地
	小田代～田代山区間	51									●	iii	D	ジョウシュウオニアザミ
その他 エリア	大清水湿原	52	●	●								ii	C	ミズバショウ、ニッコウキスゲ群生地
	一ノ瀬周辺	53				●						iii	D	ホソバノツルリンドウ生育地
	黒塗	54				●						iii	D	黒塗 生育地 消失?
	奥鬼怒林道沿い周辺	55				●						iii	D	エゾムラサキ生育地
	長池	56	●				●					iii	D	ミズバショウ群生地
	片品川源流部	57				●						iii	D	エゾニワトコ生育地

※Aランク:数年以内に保全対象が失われる可能性があり、直ちに植生保護柵を設置することが望ましいエリア

Bランク:今後被害の拡大が予測され、数年以内に植生保護柵を設置することが望ましいエリア

Cランク:Bランク程ではないが、植生保護柵を設置することが望ましいエリア

Dランク:今後被害の状況により、植生保護柵の設置を検討する必要があるエリア

希少種の保全の観点から一部の情報を黒塗りにしています

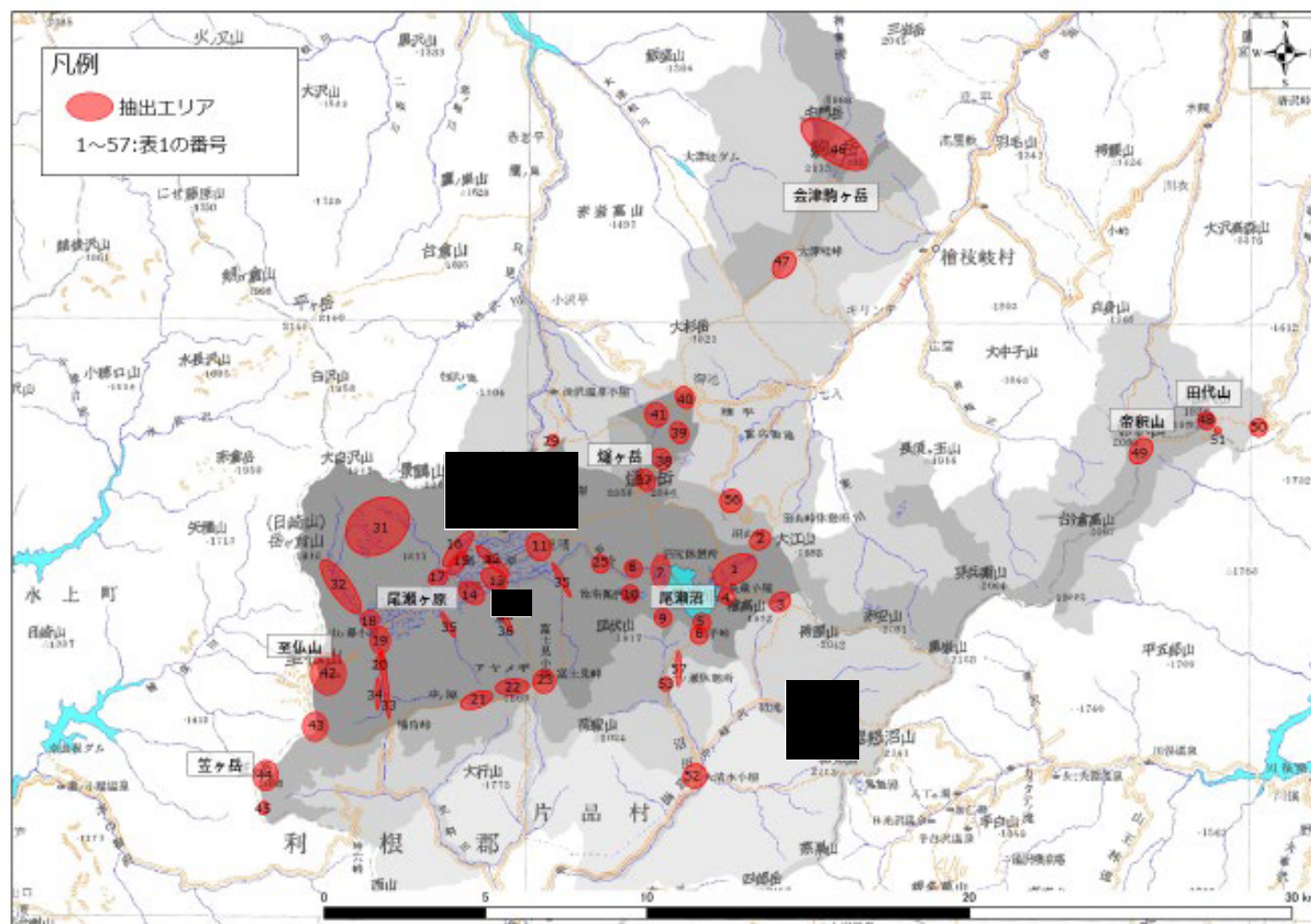


図2 抽出エリア位置図

希少種の保全の観点から一部の情報を黒塗りにしています

4. 優先防護エリアの選定結果及び理由

選定基準①～⑤に示した、対策の緊急性（植生被害状況）や、種及び生育エリアの希少性・重要性を勘案し、優先防護エリアを表 2 及び図 3 のとおり選定した。

表 2 優先防護エリアの選定結果及び理由

ランク	No.	エリア	選定理由
A	1	大江湿原	<ul style="list-style-type: none"> ● ニッコウキスゲの消失、開花状況（景観）の変化が危惧される ● 尾瀬沼合流部付近の低層湿原において、ミツガシワの根の採食に伴う掘り起こしによる裸地化のリスクが高く、湿原景観の変化が危惧される ● 尾瀬において消失が危惧されるシナノキンバイ、ヤナギトラノオ、クロバナロウゲが生育している
	2	尾瀬ヶ原（ヨッピ川南岸）	<ul style="list-style-type: none"> ● ニッコウキスゲの群生地であり、シカの影響により、一部の地域で55%～83%の花に被害があったことが確認され（2018、環境省関東地方環境事務所）、著しく開花状況（景観）に影響がでていると推測される ● 尾瀬において消失が危惧されるヤナギトラノオ、カキランが生育している
	3	尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	<ul style="list-style-type: none"> ● ミズトクサ、ミズバショウ、ニッコウキスゲなど景観的に重要な植生へのダメージが大きく、景観に著しい影響が予測される ● 紅葉が美しいヤマウルシ、ウワミズザクラなどの低木群落が採食により衰退するおそれがあり、景観への影響が予測される
	4	笠ヶ岳・至仏山周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、採食痕跡が急速に確認され、希少植物やその開花状況（景観）に影響が予測される ● 蛇紋岩植生、傾斜地に発達した雪田植生など、一度破壊されると回復が極めて困難な脆弱な植生において被害が確認されている ● 尾瀬において消失が危惧されるシラネアザミ、シナノキンバイ、シラネアオイが生育している ● シカの影響が発生してから経過年数が短く、元の植生において先行的な防除が可能となるエリアが残存している
	5	の生育地	<ul style="list-style-type: none"> ● の一部生育地では、シカの強い採食圧により、群生しているエリアにおいては景観的に消失しつつある。また嗜好性の高いシラネアオイも同エリアに生息している ● 尾瀬において個体数が著しく少なく、かつ強い採食圧により消失寸前の状況にある が生育している
B	6	燧ヶ岳山頂周辺の高山植生	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるトウヤクリンドウ、コマクサ、アラシグサ、ウラゲキヌガサソウが生育している
	7	尾瀬ヶ原（研究見本園）	<ul style="list-style-type: none"> ● ミツガシワ、ミズバショウが生育する低層湿原群落が多く含まれ、シカの影響により景観が劣化している ● 尾瀬において消失が危惧されるシラネアザミ、ヤナギトラノオ、クロバナロウゲ、オオニガナ、オオバコウモリ、ヒメミズトンボ（オゼノサワトンボ）が生育している
	8	尾瀬ヶ原（竜宮）	<ul style="list-style-type: none"> ● ミツガシワ、ミズバショウ、リュウキンカが生育する低層湿原群落が多く含まれ、シカの影響により景観が劣化している ● 尾瀬において消失が危惧されるヤナギトラノオ、オオニガナ、オゼヌマアザミが生育している
	9	尾瀬ヶ原（見晴）	<ul style="list-style-type: none"> ● ミツガシワ、ミズバショウ、リュウキンカが生育する低層湿原群落が多く含まれ、シカの影響により景観が劣化している ● 尾瀬において消失が危惧されるヤナギトラノオ、オオニガナ、オゼヌマアザミ、ヒメミズトンボ（オゼノサワトンボ）が生育している
	10	尾瀬ヶ原（泉水田代）	<ul style="list-style-type: none"> ● 低層湿原、泉水池に群生していたクロバナロウゲ群落が、シカの影響により縮小している ● ミツガシワ、ミズバショウ、リュウキンカが生育する低層湿原群落が多く含まれ、シカの影響により景観が阻害されている
C	11	会津駒ヶ岳山頂周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪田草原を中心とした高山植物及び傾斜湿原植生は、一度破壊されると回復が極めて困難な植生基盤である
	12	大津岐峠周辺の稜線 雪崩斜面谷頭部及び雪田草原	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるシラネアオイが生育している ● 直接的な被害は確認されていないが、周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、植生被害の発生が懸念される
	13	田代山山頂の湿原群落	<ul style="list-style-type: none"> ● ニッコウキスゲ群落への影響が懸念される ● 傾斜湿原であるため、一度破壊されると回復が極めて困難な植生基盤である
	14	帝釈山山麓のオサバグサ群生地	<ul style="list-style-type: none"> ● 帝釈山山麓の景観を代表するオサバグサ群生への直接的な被害は確認されていないが、周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、植生被害の発生や景観への影響が懸念される
	15	猿倉登山口周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるセンジュガンビが生育している ● 直接的な被害は確認されていないが、周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、植生被害の発生が懸念される
	16	景観山山麓	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるセンジュガンビ、ジョウシュウトリカブトが生育している ● 周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、希少植物への採食圧が高まる可能性があり、個体数の減少が危惧される
	17	燧ヶ岳西山麓 大横沢のフキユキノシタ群落	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるフキユキノシタ、ジョウシュウトリカブトが生育している ● 周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、希少植物への採食圧が高まる可能性があり、個体数の減少が危惧される
	18	御池田代	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるクロバナロウゲが生育し、採食圧が高い状況が継続している
	19	イヨドマリ沢	<ul style="list-style-type: none"> ● 尾瀬において消失が危惧されるジョウシュウトリカブトが生育し、採食圧が高い状況が継続している ● 周辺での採食圧が高く、今後、餌資源量の変化に伴い、希少植物への採食圧が高まる可能性があり、個体数の減少が危惧される
	20	大清水湿原	<ul style="list-style-type: none"> ● ミズバショウの群生地であったが、近年はシカの影響により著しく減少し、かつての景観が損なわれている

※「尾瀬シカ管理方針」（2009年3月尾瀬国立公園シカ対策協議会決定）においては、尾瀬国立公園特別保護地区及び第1種特別地域内の湿原及び森林群落の全域が保全対象とされており、また、森林群落の多くは林野庁の保護林（森林生態系保護地域）に指定されているため、今後も経過観察を継続し、被害状況や景観、絶滅危惧種の生育状況等に応じて、定期的に優先防護エリアの見直しを行う必要がある。

希少種の保全の観点から一部の情報を黒塗りにしています

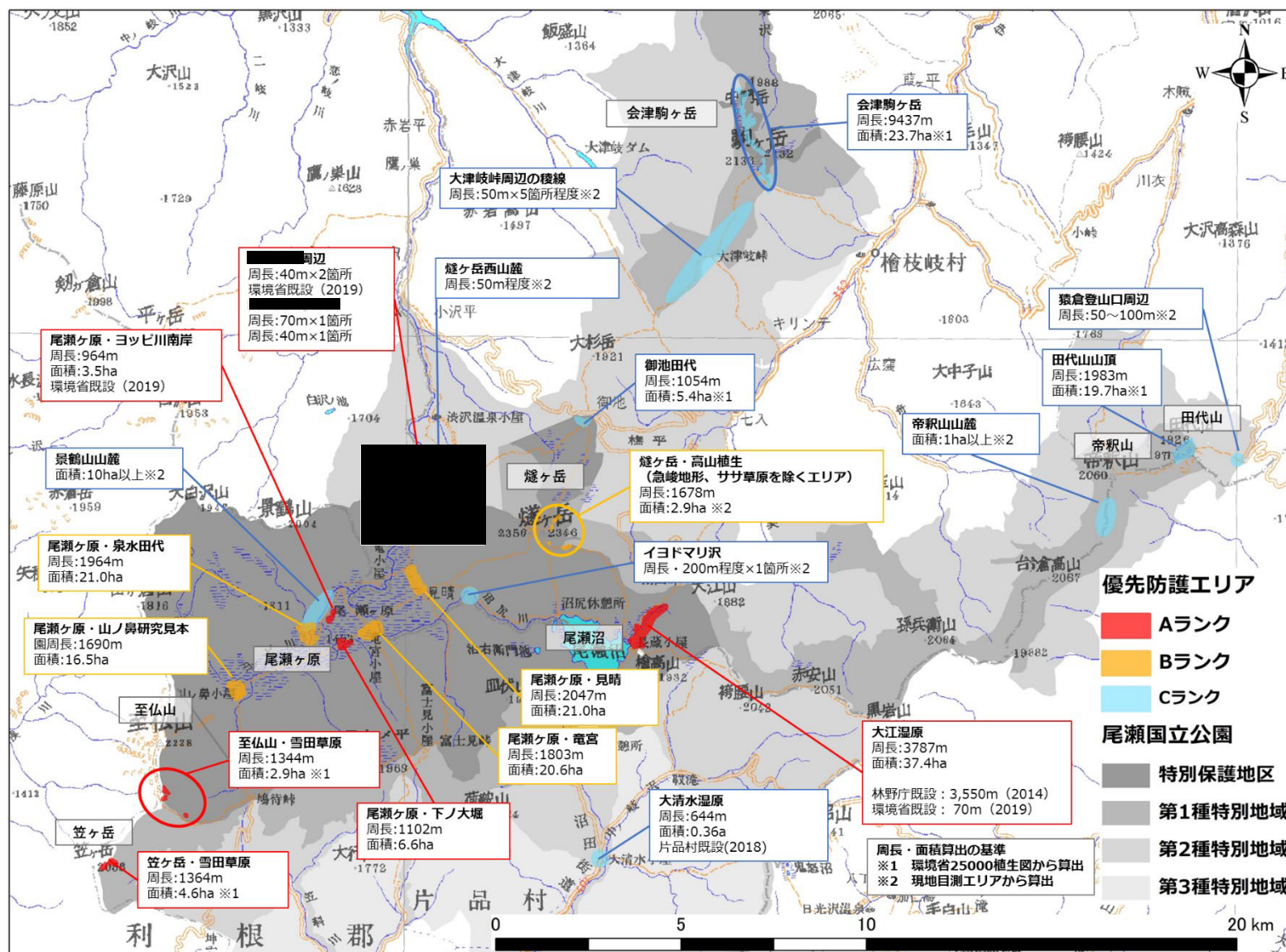


図 3 優先防護エリア (案)